

令和5年度 学校関係者評価実施用紙（まとめ用）

学校番号	34	学校名	静岡高等学校（全日制）	記載者	副校長 石村俊樹
------	----	-----	-------------	-----	----------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	毎日の学習及び生活のリズムを確立する	○「規則正しい生活（生活リズムを確立）している」と自己評価する生徒70%以上 ○「挨拶ができてい」と自己評価する生徒80%以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「規則正しい生活」について保護者が76%評価しており、大きな問題はないが、生徒は65%と低く評価に差があることは気になった。 ・設問は「規則正しい生活をしている」＝「生活のリズムを確立している」だが、大切なのは自分にあった生活リズムを確立していると自己評価できること。2つの設問がイコールの場合もあるし、そうでない場合もあると思う。 ・「挨拶」については、生徒全体で85%に達し大いに改善されたが、100%を目指したい。また、外部の人にも積極的に挨拶してほしい。 ・毎日の生活の中で、大切な生徒の命を守るため、一層の自転車の運転マナーの指導が必要。
イ	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心や探究心を喚起する	○授業を大切にすする生徒、主体的に学ぶ生徒の育成 ○「授業の内容がよくわかる」、「知的好奇心を喚起する授業が行われている」と自己評価する生徒80%以上 ○測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組む教員90%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業について生徒の自己評価が高く、大いに評価できる。 ・この項目は静岡高校として最も重要で、教員には「知的好奇心を刺激し高める授業」に向けた日々の研鑽が、生徒には「学校の授業を大切にすること」が、いつの時代も求められ、その努力をして欲しいと思う。 ・「主体的・対話的で深い学び」という観点について、静岡高校ならではのもうワンランク上の取組ができるように思う。 ・各授業でひとつでいいので、面白いと思うことを見つけられたか聞いてみるのもよい。
ウ	新学習指導要領に対応した教育課程への円滑な移行及び土曜オープンスクールと広報の充実を図る	○「カリキュラム・マネジメント」の視点からのカリキュラム改善 ○中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ1,000	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・狭い意味での「学力」（大学入試への対応）を求めるとともに、各教科の醍醐味や教科間の横断を意識し、カリキュラム・マネジメントの視点からの授業改善に努めていただきたい。 ・ホームページの更新回数を気にするより、質が大切。組織的に取り組む程度でも良いのではないかな。

		人以上 ○ホームページ更新 週3回以上			<ul style="list-style-type: none"> ・外部からの関心はとても高いので、積極的な更新を願う。 ・生徒が学校紹介の動画を作り、ホームページをその発表の場にしてはどうか。
エ	低学年からの高い志の育成に努め、進路実現を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導が適切に行われている 80%以上 ○入らなければならない大学を見つけた生徒の割合 80%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校（進路課や学年）に加え、PTA等との外郭団体との連携をより進め、時代が求めるような最先端のもの、学問の本質を捉えるもの、グローバルな視点を喚起するものなど、本物かつ良質な情報を生徒にシャワーを浴びせるように提供して欲しい。 ・「入らなければならない大学を見つける」という目標は素晴らしく、3年生で82%あったことは大いに評価できる。 ・「入らなければならない」という表現は、1年生にとっては「強い」表現だと感じる。低学年から高い志の育成に努め、進路実現を図ってほしい。 ・偏差値の価値観ではなく、自分自身の興味関心に基づいた価値観で、社会で活躍し貢献する人材を育成してほしい。
オ	学校行事や部活動に主体的に参加し活動するとともに、社会に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事や部活動に積極的に取り組む生徒 85%以上 ○1部活1社会貢献活動 100% 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方には生徒の主体性を引き出すような働きかけを期待する。 ・次年度から部活動の任意加入は、教職員にとっては、働き方改革や負担軽減等の観点からの変更で英断だと思う。放課後の時間を学校だけで抱えるのではなく、地域や社会に委ねていく方向がよい。生徒にとっては、探究活動等の学校外の活動への参加がこれまで以上にしやすくなるメリットもあるように思う。 ・次年度は部活動が任意加入となるので、部活動単位で社会貢献活動为目标とするのではなく、「部活動でも、個人でもよいので社会貢献活動をしましょう」という目標としたらどうでしょうか。その際に、探究活動等で地域や社会の人たちと行った活動も入れても良いと思う。 ・社会貢献活動は自主的なもので、その雰囲気作りをしていただきたい。
カ	読書習慣の定着と読書量の増大、図書館利用の推進を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の読書週間 年2回 ○図書館開放 年300日以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書週間は「読書習慣の定着と読書量の増大」には効果的で、継続してほしい。また、図書館ボランティアによる「図書館開放」は素晴らしい取組で、無理のない範囲で継続してほしい。 ・時宜を得た本、学問や進路に繋がる本など良質の図書の提供は必須。 ・本を読む習慣を身に付けていることはとても大切なことである。

様式第5号

キ	生徒及び職員が心身ともに健康で過ごすことができる校内環境を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察を通しての情報共有 ○校内情報交換会 学期1回以上 ○学習環境の美化に努める生徒の育成 ○安全点検 学期1回 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察の毎日の集約と情報共有は生徒把握と生徒理解には大切なこと。労力が大きいと思うので、デジタル化するなど、工夫できることはないでしょうか。 ・支援や配慮が必要な生徒に対しては、引き続き情報交換会や関係外部機関との連携を密にして、対応してほしい。 ・評価の低かったエコ活動の推進については、更なる創意工夫と改善を望む。 ・感染症については適切な対処を続けてほしい。
ク	教職員の校内外の研修を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ○「グラデュエーション・ポリシー」を踏まえた授業改善に向けた研修機会の充実 ○授業参観週間 年2回 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修のテーマ設定もGPに沿って良い。先生方には研修を通じて、教育実践力を高めていただきたい。 ・授業参観週間では、教員同士が学び合う風土を継続して作り上げて欲しい。 ・先生方には学校外の研修の機会が多いと思う。
ケ	校内外のプログラムや外部人材の活用を通して、グローバルな視野の育成及び国際交流を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○各種プログラム参加者の増加と意識の向上 ○参加生徒、教職員の視野の拡大と他生徒への波及効果 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強ができるだけでなく主体的に行動できる人材の育成に資する、様々な外部プログラムへの参加を促せるとよい。 ・グローバルな視野の育成や国際交流を引き続き推進して欲しい。 ・外部人材の効果的な活用が生徒自らの学びに繋がる。 ・グローバルな視点と併せ、街の人たちの生活に触れるような体験も必要。
コ	「学校における働き方改革」に組織的に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ○行事・業務の意義や必要性を見直し、整理・精選を図る。 ○産業医への勤務状況報告と指導助言の実施 毎月 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の取組に学校の創意工夫と努力が見受けられる。引き続き取り組んでほしい。 ・思い切って止められることは止める勇氣を持って取り組んではどうか。 ・部活動の任意加入は働き方改革の第一歩。学校以外でできることを、思い切って外出ししていくことができるとよい。 ・「アンガーマネジメントのための職場づくり研修」の報告書から、職場の雰囲気づくりに取り組んでいる様子が分かった。職員室の机の整理をしたりするなどできることから取り組んでほしい。